

5月から市主催講座が始まります

健康体操

開講式：5月5日(火) 9:30~11:30
 毎月 第1・3火曜日 9:30~11:30
 講師：宮地紀恵子さん
 受講料：年額 3,000円

絵画(絵手紙)

開講式：5月15日(金) 9:30~11:30
 毎月 第3金曜日 9:30~11:30
 講師：村尾正顕さん
 受講料：年額 3,000円

市主催講座・自主講座(パソコン教室・詩吟教室・英会話教室)共に随時受付しています。
 申込み・お問い合わせは鷺浦コミセンまで
 TEL 87-5004

鷺浦小学校入学式

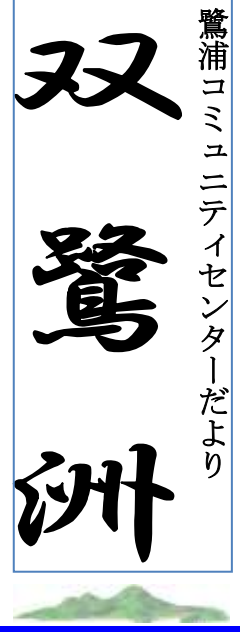


4月7日(火)鷺浦小学校の入学式が行われ、2名の児童が入学されました。

神田校長先生より入学のお祝いで、二人の心に三つの種を蒔かれました。

- ① 健康の種 ② 元気の種 ③ 仲良しの種
- 元気にたくましく成長して下さい!

幼稚園は今年度の入園者はありませんでした。



発行
 鷺浦コミュニティセンター
 電話/FAX: 0848-87-5004
 Eメール: sagiurac@mail.mcat.ne.jp

広島・ニュージーランド「友好の森」看板設置



4月17日(金)向田のトライアスロン友好記念樹の前にニュージーランド「友好の森」の看板を設置しました。この看板は、ニュージーランドとの友好の礎となったサイモン選手を偲び、記念として「友好の森」をつくることとなったものです。

さぎしまのアルバム共同購入のご案内

双鷺洲3月で、さぎしまフォトコンテストの応募作品を編集して生まれた、「さぎしまのアルバム」に好評をいただいています。再度予約注文を受け付けますので、希望者は申し込み下さい。

本体価格 698円 送料 500円 手数料 300円
 申し込み先
 コミセン 宮尾 87-5004 締切り 5月15日(金)
 河本吉重 090-8608-9769

就任のご挨拶

4月から生涯学習相談員に就任いたしました。前任者同様暖かい御支援ご協力をよろしく申し上げます。 宮尾 栄

5月町内行事予定

- ・ 3日(日) お大師さん さぎしま八十八か所スタンプラリー
- ・ 16日(土) 松若流寿恵里会鷺島 「おさらい会」
- ・ 24日(日) 鷺浦幼・小・町内運動会
- ・ 29日(金) 第1回トライアスロン実行委員会

第26回トライアスロンさぎしま大会

期日 平成27年8月30日(日)

午前10時スタート

第26回大会の実行委員が選出されました。

- | | |
|--------|------|
| 実行委員長 | 御畑誠二 |
| 副実行委員長 | 平木豊彦 |
| | 山本正司 |
| | 田中克博 |
| 大会総務主任 | 谷本弘夫 |
| 事務局長 | 平木政則 |

お知らせ

ふるさと館から

今年もゴールデンウィークに5月人形展・生け花展を開催します。多くの方のご来館をお待ちしています。

期間：5月3日(日)～5月6日(水) 午前中華展：開本社中

俳句・短歌

- ・ 散歩中一句をひねり花の散る
 - ・ 春来たり山は緑に鶯の啼く
 - ・ 野仏の顔一面に花吹雪
 - ・ 彩かに咲き揃ひたるチューリップ
 - ・ 竹の秋二十四孝に倣いけり
 - ・ 春の潮一里の島の絵画展
 - ・ 春霞百花繚乱咲きほこり
 - ・ 農作業次から次へと切りが無い
- 八十路に向いてくたびれ果てる
- あかんたれ
ぶんか
一草
牡丹

当面のメニュー

うどん定食	500円
わかめうどん	300円
肉うどん	350円
コーヒー	150円
おむすび(1個)	100円

1階にテーブル席が12、2階にはソファで憩うことができ、みなと茶屋。いまのところ、うどんを中心としたメニューを展開しています。山形から駆けつけた佐々木祐輔さんは「みなさんとってもがんばってました。定食も合格」と話しています。

おいしい食事に反響



観光や仕事の来島者が、また島内の人が食事に困ったり、寂しく食事をしたりしないようにと、3月29日に念願のお食事処「みなと茶屋」がオープンしました。



新たな展開話し合う

ふるさとという最前線第6期生は継続的にみなさんと関わっていったらと都内で話し合いを継続。6月に訪ねられたらと計画しています。よろしくお願ひします。



みなと茶屋

営業日(週4日)

火・水・土・日

11~14時

元気もおすそ分けして

宮脇亮平さん(studio-L)から



海から見たこと

ありますか？

シーカヤックで各地をまわるブログ「瀬戸内漕々…カヤック漕快録!」のsea10000さんから船上から撮影した塔ノ峰の千本桜の写真が届きました。

しまのわ企画を通して、みなと茶屋のプロジェクトに関わった宮脇亮平さんからもメッセージをいただきました。
「いろいろと関わらせていただいた時に、私は皆さんから多くの元気をもらうことができました。これからも多くの来島者さんに元気をおすそ分けしてあげてください。僕も三原市に行った時はふらっと遊びにいき、元気をもらいにいきます！念願の開業おめでとうございます！ご繁昌とご発展を心よりお祈り申し上げます。」

宮本常一と佐木島



(4)「島だからできるのだ」という自信を

民俗学者、宮本常一は離島振興法の制定に尽力し、各地で離島振興に関する講演をしています。昭和43年に第13回全国離島青年会議で行った講演「島の開発と青年の役割」では、当時活発に行われていた、各地の青年推進員の活動を高く評価し、その可能性を話しています。その内容を見て行きましょう。

当時もすでに離島人口の減少が問題となっており、地元に残る若者を増やすためには、「魅力ある島づくり」が必要で、それは「船が大型化したとか、観光客が増えたとか」ではなく、「島の人々の手で、島の生産力が高まり、安心して毎日が楽しく過せる」、「大きな将来性を発見するシステムをつくりあげること」だとしています。

そのためには、自分たちが「不満や要望をひとりひとりの腹の中に抑えず」正しいことや建設的な意見は、民衆の声としてどしどし具現化していかなくてはならない」と語っています。声を上げていくためには、「郷里の振興に頑張っている青年のための教育」＝「社会教育」をおろそかにしてはならないとしています。

宮本常一の言う「社会教育」とは、ふたつの内容があり、ひとつは「島民自身で人材の養成と能力開発に努める」こと、もう一つは「外部の学者や専門家をどしどし島に呼び寄せ、指導してもらうこと」で、前者によって「島に住むことに誇りと自信を持つ」ことが出来、後者、言い換えれば「的確な情報をつかむシステムの完備」することで、「島だからできないのではなく、島だからできるのだ」という自信が持つてほしいと言っています。

そこから具体的に考えなおすべきものとして、3つを指摘しています。未利用の資源を探し活用する。特産物を販売するときは、流通経路を見直し、直接大消費地と結びつきを持つ。観光においては、他の観光地を回って島を訪れる人ではなく、直接島に来る人をどのように増やすかを課題にしたらどうかと云っています(以上『宮本常一講演集4郷土を見るまなざし―離島を中心に』(農文協、2014)より)。(つづく)